
メモリーズ

未来

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メモリーズ

【Nコード】

N6838Z

【作者名】

未来

【あらすじ】

冬・春・夏・秋のオムニバス形式でお送りいたします。

／／／／／／／／／／／／／／／／

「あつついね。私のガリガリくんが夏に食べられちゃうよ」

連日の真夏日。僕らの街は、フェーン風の影響でお盆の時期から日によっては40度近くまで気温が上がる。隣を歩くひかりは、先ほど立ち寄ったローソンで買ったガリガリくんを溶けないうちにと必死に食べている。

「もう夕方だつて言うのにね」

日は沈んだがまだまだ空は明るい。腕時計を見ると7時10分をさしていた。

「ああつ！！オーマイガツ」

夏にひかりのガリガリくんが奪われた。溶け落ちたガリガリくんは真夏のアスファルトにじわじわとシミをつくっていく。

「夏のバカヤロー！お前なんか大嫌いだあ！！」

ひかりは雲ひとつない夏空に叫んだ。

「そんなに怒るなよ。夏だつて悪気があつてひかりのガリガリくんを取ったわけじゃないだろ」

「うっ、夏をかばうんだつたら、未来くんが代わりに私のガリガリくん弁償してよ」

ひかりはアイスの溶け落ちた棒を僕に突き付けた。そして、大好きなガリガリくんの仇をかばう僕をうらめしそうに睨んできた。

「いいよ」

僕は言う。

「えっ？ホントに？やったー！未来くん太っ腹」

先ほどまでのふくれっ面とアスファルトに食べられたガリガリくんのことをひかりは一瞬で忘れた。

「ほら」

僕はひかりのもつガリガリくんの棒を指差す。そこには『当たり前』と記されていた。

「あつ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6838z/>

メモリーズ

2011年12月22日23時53分発行